

# 教育センター通信

令和 7 年 3 月 7 日

No. 4

中野区立教育センター

所長 井元 章二

～ すべての子どものために、支援の中心として ～

## 「辛いのは今だけ。大丈夫必ず治る。」

所長 井元 章二

新体操の選手になる夢を抱き、毎日何時間も練習している小学 5 年生の女の子がいました。体力に自信はあったのですが、突然に体調異変をきたし大学病院で過酷な治療に入ります。副作用や高熱で体力がドンドン落ち、自分が自分でなくなっていくのを感じました。コロナ禍で家族の面会もなく長期の孤独な入院生活を送ります。心身共に限界を迎え、「無理。もう治療を止めて家に帰りたい。」と泣いてお母さんに訴えます。治療を止めるイコール死。もう楽になりたい。命を絶とうとも考えたそうです。

そんな中、切り替えるきっかけがありました。オリンピック競泳女子の出場選手が、白血病の闘病中に自分に言い聞かせていたという、上の標題にした言葉を耳にしたのです。先の見えない暗闇に光が射しました。辛いのは永遠じゃない今だけだと気付いた時、また治療に向き合

うようになったのです。退院したら何をしたいかノートにたくさん書き、長い闘病生活を乗り越えました。彼女は病気になって気付いたことがあります。それは、たくさんの人の優しさだといいます。学校の友達や家族の存在です。



朝起きて家族におはようと言えること。顔を合わせて食事ができること。学校に行けること。友達と過ごすたわいない時間。退院した今、当たり前前の日常が幸せに感じています。つながった命だから大切に生きていきたい、と締めくくっています。

令和 6 年度もまとめの時期です。逆境にあっても、「辛いのは今だけ」と自分に言い聞かせ、前に進もうとする児童・生徒に育つよう寄り添いながら支援できればと考えています。

東京都生活文化スポーツ局「令和 6 年度 中学生の主張東京大会 発表文集」に掲載された中学 3 年生の作文『生きること』より

## 中野区教育センターの施設紹介

中野坂上の「みらいステップなかの」という複合施設の中に教育センターが設置されています。

- ・ 3 階には教育支援室があります。学校に行きづらい児童・生徒の学習指導や居場所機能としてのフリーステップルームと外国人児童・生徒の日本語指導などの支援を行っています。
- ・ 4 階は教育相談の面接室です。6 階受付でお待ちいただき、時間になると相談員がお迎えに行きます。
- ・ 6 階には、電話相談やスクールソーシャルワーカーの部署もあります。スクールソーシャルワーカーは学校や家庭に出かけて相談・支援活動を行います。
- ・ 10 階は研修ステーションです。教職員研修や教科書展示、児童・生徒の作品展等を行う施設です。詳しくは、次ページ以降をご覧ください。

## 研修ステーション

### 【区立中学校作品展】

1月には、中学校作品展が行われていました。区内各中学校から、日頃の学習成果としての書初めや美術科、技術・家庭科などの作品が展掲されました。特別支援学級の作品も展示されていました。技術・表現力などが工夫されどれも力作ぞろいの作品展でした。

### 【教科書展示】

令和6年度現在、中野区立の小・中学校で使用している教科書を展示しています。



中学校の教科書は、令和7年度から新しくなります。中野区立中学校で使うことが決まった新しい教科書も展示しています。また、国内の教科書会社が出版している、各社の小・中学校用の教科書も展示しています。

これら教科書は区民の皆様もご覧いただけます。みらいステップなかの10階の研修ステーションで平日の9時～17時に開室しています。お越しいただくには、隣接している中野東図書館のエレベーターをご利用ください。

## 教育支援室

昨年12月23日～25日及び今年1月6～8日に、習字が好きな人、「書初め展」に出品したい人、気分転換に習字を書いてみたいという人を対象に書初め教室を実施しました。通室生以外にも呼びかけた結果、外部からも多くの方が参加され、中には親子で2日間連続して参加された方もいらっしゃいました。皆さん、書き上げた作品の出来栄に納得の様子でした。

また、教育支援室では進路支援の一つとしてチャレンジスクール等の面接や作文の練習を行っています。1月15日(水)、29日(水)、2月5日(水)の3日間は、フリーステップルーム(FSR)に在籍していない中学3年生にも参加を呼びかけたところ、多くの生徒が各練習会に参加してくれました。その参加者の中には、指定の3日間以外にもFSRに来室し、自主的に取り組む生徒もいました。

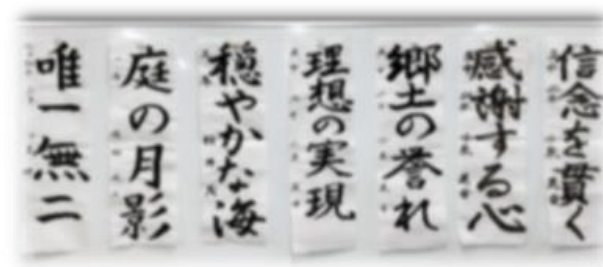
2月3日(月)に豆まきを行いました。支援員2人が鬼に扮し、みんなで「鬼は外、福は内」と言いながら鬼たちに豆を優しく当て、日本の伝統文化を楽しみました。豆まき当日、体調を崩して通室できなかった生徒が、翌4日(火)に「別の日にも豆まきをやってください」と再開催を提案してくれました。たくさんの「福」が通室生やFSRを訪れることを願っています。

2月26日(水)に「第3回学校に行きづらい子どもの保護者会」が開催されました。今回は、東京警察病院小児科部長宇田川先生に「学校に行きづらい子どもの心とのかかわり方」というテーマで講演を行っていただきました。講演会後には中野区の不登校支援の取組の紹介や保護者同士の懇談の時間も設けられました。当日は、FSRに通室している児童生徒の保護者だけでなく、学校に行きづらいと感じている子どもの保護者、学校には行けているもののお子様の様子が気になっている保護者の方も参加されました。

リレーションタイム風景(カードゲーム)



書初め展作品



## 教育相談室

### 変化のときと自分らしさ

3月から4月は節目のとき。進級進学、出会いや別れ…誰もが変化に直面しなければならないとき。大人も子どももみんな「自分らしさ」という羅針盤をたよりに変化に対応しています。



まわりの状況を見ながら、新しいところでうまく自分の立ち位置を見つける人。

初めましてが苦手だから、じっと誰かが働きかけてくれるのを待つ人。

自分の主張はどこにいても変えないゾ、と先制する人。

年度変わりはいつも疲れてしまうから、休み休み、ボチボチやっていく人。

「自分らしさ」を知っていれば、変化の荒海をなんとか乗り越えていけます。

「自分らしさ」が分からなかったり、失われていたり、小さく縮こまっていたりしたら…変化に直面したときにどうしていいのかわからず、ただただ怖いばかり。それは、体調不良やイライラの増加、憂うつな気分として現れるかもしれません。

教育相談室では、お子さんについてお困りのこと、ご心配なことをどうしていいかと考えながら、その先に「自分らしさ」「その子らしさ」を見つけていけるよう、一緒に相談をすすめていきたいと思います。お子さん自身もまた「自分らしさ」を感じていけるような、安心して相談できる場としての相談室でありたいと思います。

ところで、「自分らしさ」は良い面、できる面だけで構成されているわけではありません。わるいところ、弱いところ、ダメなところも含まれていていいのです。ほら、『アンパンマン』だって『ドラえもん』だって『ONE PIECE』だって、良いキャラクターだけでなくワルいキャラもダメなキャラも色々いるから、魅力的で面白い作品になっているはず。

『自分らしさ』のデキるところもダメなところも全部ひっくるめて、大事な自分の羅針盤にしていきたいですね。



## スクールソーシャルワーカー(SSW)



今回は、スクールソーシャルワーカーをより身近に感じてもらうために、  
私たちが日ごろ感じていること、大切にしていることをお届けします！

春は別れと出会いの季節でもありますね。

人生の中で何度も経験する出会いと別れ。いい思い出になった別れもあれば苦い思い出になった出会いもあるかもしれません。ところが考え方や行動を少し意識するだけで、晴れやかな気持ちで別れを受け入れ、新たな出会いを経験することができるのでは…

別れのあとには新たな出会いがあります。不安な気持ちがあるのは当然です。



スクールソーシャルワーカーは、子どもたちが笑顔で過ごせるように、それぞれの出会いと別れに対する気持ちや向き合い方を大切にしながら、どんなつながりがあっても少しでも安心できるのか。寄り添いながら、子どもたちの成長に繋がることを願っています。



## 相談先 申し込み方法

詳しくは教育センターのホームページをご覧ください。



### 教育相談室

- 1 《教育相談：来室による継続相談》 申し込み・お問い合わせ電話 03-5937-3074  
月・水・木・金 午前10時～午後7時 火・土 午前10時～午後6時  
※来室による継続相談は予約制です。
- 2 《電話教育相談：電話による相談》 電話 03-5937-3083  
月・水・木・金 午前10時～午後6時 火・土 午前10時～午後5時  
※相談の対象 1 《来室による継続相談》、2 《電話による相談》、いずれも、中野区立の学校（園）に通っている、または中野区に在住する、年少年齢から18歳までのお子様及びその保護者  
※日曜日・祝日・年末年始休業日は除きます。

### 教育支援室

教育支援室への申し込みは、学校を通して申請します。まず、学校の先生に相談してください。その後の教育支援室の見学日時も、原則、学校が調整します。

教育センターと分室を見学してどちらに通うか選ぶことができます。見学後、体験通室を通して支援先としてその子に合っているか、本人・保護者・支援員等で面談します。

教育支援室に入室をすることが決まりましたら、学校と相談して要請書を提出するとともに、入室説明の日時を相談してください。教育委員会が正式に入室許可して通室・外国人支援が始まります。

《教育支援室：見学・体験相談》 03-5937-3044

### スクールソーシャルワーカー（SSW）

#### ○申し込み方法

話しやすい先生に「スクールソーシャルワーカーに相談したい。」とお伝えください。担任の先生、保健室の先生、副校長先生、校長先生など、どの先生でも大丈夫です。

#### ○相談日時

月～金曜日（祝日を除く）、午前8時30分～午後5時15分

#### ○相談場所

学校や教育センター、ご家庭など、柔軟に対応させていただきます。どのような支援が必要か、一緒に考えます。安心してお話していただける場所を教えてください。

### 学校に行きづらい子のための相談窓口



「子どもが学校に行きたくないと言うが・・・」「学校以外で学習できる場所がないか・・・」など、どこに相談すればよいかわからないときにお電話ください。内容を伺い適切な相談場所をご案内します。

電話：03-5937-3146  
受付時間：平日10時～16時